

社会科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055807

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



社会科

水橋 長之
岡田 哲典
金田 哲也
共同研究者 加藤 隆弘（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

社会科の目標として、次期学習指導要領では次のように記載されている。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

昨年度からの研究である「伝統文化教育」において、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めるだけでなく、自分たちとは異なる外国の文化に対しても理解を深めることによって、公民としての基礎的教養を培うことにつながる。ひいては、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する部分につながっていくと考えている。

その一方で、昨年度からの本校社会科における実践の流れの中で、「伝統文化とは何か」という疑問が改めて浮かび上がってきた。「伝統」とは、「人間の行動様式や思考、慣習などの歴史的存在意義」、あるいは「世代を超えた精神性」などと言われているように、以前から存在する文化の中でも、今後も伝え、継承させていく普遍的価値のあるものと考えている。

グローバル化とは、世界の歴史や文化を学ぶことによって世界を見る目を養い、それを基にして自身の生まれ育った背景にある歴史や文化にも改めて目を向けられるようになることではないだろうか。また、日本の歴史や文化を学ぶことを通して、それらが貴重で尊い価値あるものと認識できることによって、世界の歴史や文化も貴重で尊い価値あるものと認識できるのではないか、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する上で必要になる視点の一つが、伝統文化教育であると考え、研究を進めていく。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

- ①日本の伝統や文化に関する理解
- ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
- ③文化の伝承・創造への主体性など

本校社会科では、上記3つの資質・能力は、①～③のスパイラルで育成されていくと考えている。

①～③の順であるとも限らず、②をきっかけに①や③に移行していくことも考えられるだろう。

特に社会科は、様々な実践のなかで、いろいろな教科等との連携を図りやすい、コアとなる教科であると考えている。社会科での実践から他教科等との連携を図り、さらには他教科等における実践が社会科との連携へとつながっていきけるように関わっていきたい。

(2) 関連・連携を図った教科等について

①世界各地の人々の生活と環境（地理的分野）

さまざまな気候帯の地域があり、それぞれの地域の自然環境に応じて、独自の伝統的な生活を持った人々が住んでいる。特に衣食住を扱う分野でもあることから、技術・家庭科との連携が考えられる。また自然環境においては、理科との連携も考えられる。

②世界から見た日本の姿（地理的分野）

日本の地形の特色として山が多い、火山活動が活発である、地震が多いといったことが挙げられる。また気候の特色としては高温多湿である。なぜこのような自然環境がみられるのかというアプローチから理科との連携が考えられる。更には、このような自然環境下にある日本人が、どのように工夫を重ね生活してきたのかといった社会的事象から、理科の気象や大地の動きに迫る手法も考えられる。

そのほか、世界から見た日本の資源、エネルギーと産業といった方向から、理科や技術・家庭科（技術分野）との連携も考えられる。

③日本の諸地域（地理的分野）

日本各地の特色を、地域ごとに学んでいく部分である。京都、奈良など近畿地方へ修学旅行に行くことから、日本各地のことを学んだうえで、数ある日本のそれぞれに魅力的な地域の中から、なぜ近畿地方に修学旅行に行くのかといった考察を通じて、学活や総合的な学習の時間との連携が考えられる。

④身近な地域の調査（地理的分野）

自分たちの住む地域を調査し、理解し、未来への提言を行う活動を通して、どのように成果を発信するかによってさまざまな教科との連携が考えられる。例えば外国に発信することを想定して英語科と、国内に言語化して発信することを想定して国語科と、視覚に訴える形で発信することを想定して美術科や技術・家庭科（技術分野）との連携が考えられる。また、自分たちの地域の生活文化を発信することを想定して、技術・家庭科（家庭分野）との連携が考えられる。

⑤文化史に関わる単元（歴史的分野）

古代では寺院建築や仏像などの美術品が登場することから、美術科との連携が考えられる。また、建築物や美術品が美しく見えるのはなぜかといったアプローチから、数学科との連携も考えられるのではないと思われる。「枕草子」や「平家物語」、「おくのほそ道」といった歴史上の文学作品は国語科でも扱うことから、国語科との連携も考えられる。ESDの研究では、能に関連して音楽科と国語科の連携がみられたが、ここに社会科も連携していくことができる。またこうし

た日本の文化は、外国の人々から見ても興味深いものであることから、どのように英語で発信するかという視点で英語科との連携も考えられる。

⑥現代社会と私たちの生活（公民的分野）

この単元では、伝統文化そのものを扱っている。その内容は、暮らしに生きる伝統文化として、衣食住や年中行事などのいわゆる生活文化を扱っている。このことは、生活文化を伝統文化という視点で扱うことにより、生徒自身の日常生活の中に深く伝統文化が根付いていること、そして生徒自身が文化の継承や創造の担い手であるとの自覚を促すことにつながると考えている。

また、金沢の伝統芸能である「能」や「素囃子」を扱い、上述⑤の歴史的な分野同様に国語科や音楽科との連携を図り、理解の深まりを考えた。

⑦現代の民主政治と社会（公民的分野）

政治や行政のはたらきによって、伝統文化の振興につながっていることがある。地元産の材料を用いたものづくりや食文化というアプローチから技術・家庭科との連携が、建築物の高さを規制する景観条例に関して規制される高さの根拠はどこにあるのかというアプローチから、数学科との連携が考えられる。

3. 成果と課題

(1) 教科横断的な視点から

本校社会科で12月に全校生徒を対象に実施したアンケートにおいて、教科横断的な内容について質問した。設問1の、「あなたは、社会科の学習内容のなかで、他教科の学習内容が深く関連していると意識したことはありますか」に対する結果は、次のとおりである。

	1年	2年	3年
意識したことがある	43.0%	87.2%	58.8%
意識したことがない	57.0%	12.8%	42.2%

具体例を挙げさせた自由記述欄では、前段の「(2) 関連・連携等を図った教科等について」に関連した内容が多かった。また、理科の天体の単元において、ナイル川流域のエジプト古代文明を用いた実践を挙げた生徒や、歴史がわかることで古文が描いた世界がよりわかるようになったことを挙げた生徒も多かった。伝統や文化に関する教育において、他教科と連携した実践がまだまだ考えられることを再認識した。次年度は、社会科で今、何を学習しているのか、そして他教科等では今、何を学習しているのかだけでなく、以前何を学習してきたか、今後何を学習していくかに対しても意識を払い連携を一層深めていく必要があると考える。

アンケートの設問要旨

- 設問1 社会科の学習内容のなかで、他教科の学習内容との関連を意識したことがあるか
- 設問2 設問1の具体例について
- 設問3 教科横断的な学習について
- ① 新たな気づきや学びがあったか
- ② 興味・関心がより高まるか
- 設問4 「伝統や文化に関する教育」についてどのように感じ、行動に移しているか

設問3の、『①「ひとつの題材を複数の教科の授業を通して学ぶ機会」を通して、新たな気づきや学びがありましたか』、『②「ひとつの題材を複数の教科の授業を通して学ぶ機会」についてどのように感じていますか』に対する結果は、次のとおりである。

	1年	2年	3年
「新たな気づきや学び」が、たくさんあった。	43.0%	53.8%	47.7%
「新たな気づきや学び」が、少しはあった。	55.1%	44.2%	48.3%
「新たな気づきや学び」は、ほとんどなかった。	1.3%	1.9%	3.3%
「新たな気づきや学び」は、なかった。	0.6%	0%	0.7%

	1年	2年	3年
興味・関心が、とても高まる。	58.9%	50.6%	52.0%
興味・関心が、ある程度は高まる。	37.3%	46.2%	44.1%
興味・関心は、あまり高まらない。	2.5%	3.2%	4.0%
興味・関心は、高まらない。	1.3%	0%	0%

感じたり考えたりしたことの具体例を挙げさせた自由記述欄（設問2）では、特に3年において、文系理系で分けられるようなものではないといった指摘が複数見られた。また、各教科はそれぞれ異なるものというよりは、ある現象や問題を考えるときに分けられる視点の一つだと感じたといった指摘が見られた。

(2) 社会科としての視点から

アンケートの設問4、『昨年度からの授業（全教科）を通して、「伝統や文化に関する教育」について、どのように感じていますか』に対する結果は、次のとおりである。

伝統や文化の大切さを、	1年	2年	3年
ある程度理解することができ、何らかの行動に移すことができた。	7.6%	3.9%	18.3%
ある程度理解することができた。	87.3%	87.7%	76.5%
あまり理解することができなかった。	3.8%	8.4%	5.2%
理解することができなかった。	1.3%	0%	0%

自由記述欄では行動の内容についても質問した。3年において、行動に移すことができた割合が特に高い。社会科に関連しそうなものとして、具体的には次のようなものがあった。なお、「学校全体として育成する3つの資質・能力」のうち、①～③のどれと関連が強いと考えたかを、①～③の番号で示した。

- ・日本と外国の違いにもとづく国際問題について調べ、まとめた。 ②
- ・習い事の茶道に、より熱心に取り組むようになった。 ③
- ・各国の文化と日本文化との違いを考えることができた。 ①
- ・自分から、興味を持った伝統や文化について調べた。 ①
- ・図書館で関連する本を借りて読んだ。 ①

- ・地域の伝統ある行事に参加した。 ③
- ・伝統文化系の仕事をしている方から、話を聞いた。 ①
- ・家族など家の人に伝えた。 ③
- ・伝統や文化に関係する場所やものを見かけたら、立ち止まって眺めたりするようになった。 ①
- ・茶室の見学に行った。 ③
- ・実際に着物を着た。 ③
- ・伝統工芸について調べた。 ③
- ・充実に和紙作りを行った。 ③

本校社会科では、学校全体として育成する3つの資質・能力は、①～③のスパイラルで育成されていくと考えているが、改めてそのことを再認識する結果になったように思う。また、実際には①～③の複数と関連しているケースもあるように考えられる。伝統や文化の大切さを理解することと、それをどのように具体的行動に結びつけるかとの間にあるギャップを埋めるために何が求められるのかも、考えていく必要があるだろう。

実践事例

社会 1 年

授業者 水橋 長之	授業日 5 月 7 日(月)	
授業クラス	社会科(地理的分野) 1 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 技術・家庭
<p>授業内容</p> <p>「世界のさまざまな住居」 世界各地に見られるさまざまな住居の写真をもとに、それぞれの特徴を探り、気候などの環境要因と住居の素材や形状が密接に関連していることについて考察することで、世界各地の人々の生活と環境についての関心を持つ。また、写真資料の読み取りについて確認する。</p>		
<p>教科等で身に付けたい力(本時について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境が異なる地域の住居の特徴を写真から追究し、世界各地の人々の生活と環境について興味や関心を高めようとする。 【関心・意欲・態度】 		<p>育成したい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度 自然環境との関わりにおいて、それぞれ受けつがれてきた世界の伝統文化に関する理解を深める。
<p>授業のポイント・流れ</p>		
<p>導入</p> <p>1 世界の様々な住居を想起させる。 テレビ番組などで見聞きしたことのある世界の様々な住居について聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イグルー ・ レンガ造りの家 ・ ログハウス 		
<p>展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>課題：写真資料から人々の生活環境を読み取ろう</p> </div>		
<p>2 写真を見て、気候帯による住居の比較をする。 冷帯と熱帯の住居の違いについて、比較して探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷帯 木造、小さな窓、暖炉の煙突、針葉樹 ・ 熱帯 茅葺き屋根、通気性、熱帯林 ・ 気候帯による違いを探る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>住居だけでなく、背景の樹木など周囲の様子にも着目し、写真全体を捉えるよう促す。</p> </div> <p>3 その他の住居の特徴を探る。 他の気候帯に見られる住居を、その気候の特色から探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高山気候 石造り、積雪のある山々 ・ 温帯 石造り、広葉樹 ・ 乾燥帯 移動できるテント、通気性、遮光性、砂漠 		
<p>まとめ</p> <p>4 本時の振り返り</p>		

実践事例

社会1年

授業者 水橋 長之	授業日 7 月 11 日(水)	
授業クラス	社会科(歴史的分野) 1 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 総合的な学習 (1年シルエット劇)
<p>授業内容</p> <p>「現代に受けつがれる神話」 記紀神話，風土記の記述から，日本神話の内容について知る。また，日本神話の中に示されている日本の成り立ちを通して，ギリシャ神話との共通点を見いだし，古代の人々の世界観等に触れる。</p>		
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>・古事記，日本書紀，風土記等の伝承から日本神話について，理解を深め，ギリシャ神話との共通性などから古代の人々の考え方に触れようとする。 【関心・意欲・態度】</p>		<p>育成したい資質・能力</p> <p>②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度</p> <p>自国の文化に関する理解を深めるとともに，他国の文化との比較において，その共通性について思考を深めようとする。</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>導入</p> <p>1 絵本などで，聞いたことのある神話について想起させる。 「因幡の白ウサギ」など，幼児期に絵本の読み聞かせなどの経験について聞く。 ・因幡の白ウサギ ・アマテラスの岩戸がくれ，天孫降臨 ・ヤマタノオロチ退治 ・イザナギとイザナミ</p> <p>展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題：日本神話を通して，古代の人々の想いに触れよう</p> </div> <p>2 日本神話の内容について知る。 古事記の内容を中心に，国の成り立ちについて知る。 ・イザナギとイザナミ ・アマテラスの岩戸がくれ ・スサノオのヤマタノオロチ退治 ・因幡の白ウサギ ・海幸彦，山幸彦 ・天孫降臨</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本神話における家系図をもとに，神話と神話のつながりが整理できるよう配慮する。</p> </div> <p>3 ギリシャ神話などとの共通性を考える。 日本神話と同じような世界観について共通性を探る。 ・イザナギ・イザナミの話とギリシャ神話 ・因幡の白ウサギと東南アジアやインドの神話</p> <p>まとめ</p> <p>4 本時の振り返り</p>		

実践事例

社会2年

授業者 岡田 哲典		授業日 11 月 23 日(金)
授業クラス	2 年 1 組	関係・連携の考えられる教科等 国語
授業内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市の特色を，地方中枢都市としての特徴を踏まえて理解する。 ・ 人口密集地域である都市の再開発の手段を考察し，再開発を行う上での課題を考察する。 ・ 再開発の一方で残していくべき文化があることを世界の中での役割と関連付けて理解する。 		
教科等で身に付けたい力（本時について）	育成したい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市の過密対策について，地域の自然環境や歴史的背景，産業などと関連付けて自分なりに考えている。 <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ③文化の伝承・創造への主体性など 	
授業のポイント・流れ		
<p>1 本時の課題をつかむ（5分） 広島はどのような都市か想起させ，課題を共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">広島市などの都市はどのような変化や課題に直面しているだろう。</p> </div> <p>2 地方中枢都市広島市の過密化の対策と課題をグループで考察する（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市の歴史的背景と都市としての役割を調べる。 ・ 都市で起こる問題の住宅不足や交通渋滞が起こっている事例を提示する。 ・ 都市問題に対して効率的な再開発ができないか考える。 <p>3 広島が残していくべきものとは何か考える（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的な再開発の過程において，原爆ドームを取り壊すべきではないか問いかけ，取り壊すべきではない理由を考え，他にも残すべきものがないか話し合う <p>4 広島市などの都市における変化や課題，その解決策をまとめる（5分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地方中枢都市である広島市では人口の増加により住宅不足や交通渋滞の問題が起きている。そこで郊外と都市の交通整備を行ったり，老朽化した建物を取り壊し，大きな施設に建て替えるなどの再開発をすすめることが課題になっている。</p> </div>		

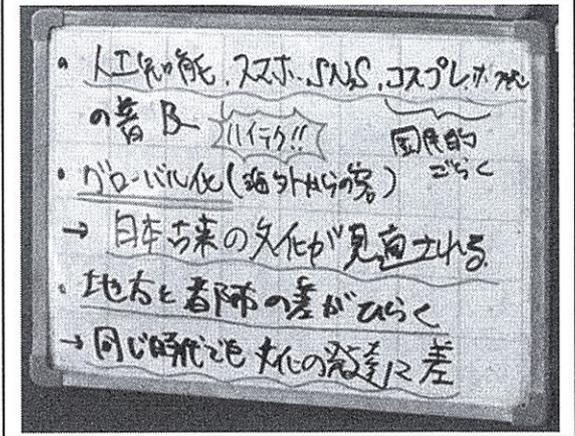
実践事例

社会3年

授業者 金田 哲也	授業日 5月23日(水) 5月24日(木)
授業クラス 社会(歴史的分野) 3年1～4組	関係・連携の考えられる教科等 美術
授業内容 ・大正時代の文化に関連して、柳宗悦関わった光化門復元運動を取り上げる。日本に支配され、同化政策が進んでいた朝鮮において、朝鮮の文化の優れた点を見出し、保護しようとした動きに触れ、海外の伝統文化に対する視点を養う。	
教科等で身に付けたい力(本時について) ・植民地朝鮮の文化を残していこうとした動きに対し、自身の考えを持ち、表現しようとしている。【思考・判断・表現】	育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度 ・日本人でありながら植民地朝鮮の文化に着目し、そのよさを認め、保護しようとしたことをもとに、他国の文化に対する視点を養う。
授業のポイント・流れ <前半15～20分は講義形式で、教科書的に大正時代の文化を扱います> ・子ども向けの文化(雑誌など) ← 義務教育の定着、中等・高等教育の広まり ・大人向けの文化 ← 知識人の増加 ← 中等・高等教育の広まり 雑誌の出版、新聞の普及、哲学のあらわれなど <朝鮮の伝統文化は、日本による植民地支配の中でどうなったと思うか?> ・破壊された ← 同化政策を行っていたから 民族自決を思い出すかもしれないから ・何もしなかった ← 日本にとっては、植民地の文化なんてどうでもよいと考えた ・保護した ← 外国のものでもよいと感じられれば、残そうとするかもしれない 明治期に日本人が評価しなかった浮世絵などは、欧米で高く評価された <朝鮮総督府建設計画について> ・朝鮮王宮の場所に建てる計画が持ち上がった → 光化門は邪魔な場所にある ・光化門の写真(現在のもの)を見せる ・わざわざそこに建てようとするのはなぜか <光化門はどうなったのか、なぜそうなったと思うのか> グループ討議、ホワイトボードでの発表 ・朝鮮の人が残そうと、激しく抵抗したのではないか ; 誰かが残そうとしたのではないか 日本人?朝鮮人?それ以外の外国人? → 資料:柳宗悦の「失われんとする一朝鮮建築のために」を用いる この資料は朝鮮語や英語にも翻訳され、広く読まれたことに触れる ・光化門と朝鮮総督府の写真を見せる → 総督府解体後の写真を見せる <外国の文化を残していく、守っていくことについて> 考えをノートに書く	

実践事例

社会3年

授業者 金田 哲也	授業日 7月11日(水) 7月12日(木)
授業クラス 社会(歴史的分野) 3年1～4組	関係・連携の考えられる教科等 国語・美術・音楽
授業内容 ・現代の文化に関連して、教科書にないものを書き加えるという活動を行う。どのようなものが教科書に載るにふさわしいのかを考える活動から、後世に残っていく文化的価値のあるものとはどのようなものかについての考察を試みる。	
教科等で身に付けたい力(本時について) ・教科書の一節を書き加えようとする活動を通して、現代文化に関する自身の考えを持ち、表現しようとしている。 【思考・判断・表現】	育成したい資質・能力 ③文化の伝承・創造への主体性など 現代の文化のうち、どのようなものがこれからも残っていき、教科書に載ったりするの かを考えることを通して、伝統や文化に流れる 普遍性を探ろうとする。
授業のポイント・流れ 導入(10分) ・過去の教科書(5年ほど前)のコピーを配布 → 内容が若干異なることへの気づき 追加されたものに対して、どのような考えのもとに追加されたのだろう？ 削られたものに対して、どのような考えのもとに削られたのだろう？ 課題 未来へ伝わっていく文化には、どのような特徴があるのだろうか？ 活動その1 個人で考える(7分) ・配布資料(過去教科書のコピー)をもとに、教科書に書き加えたらよいと思うものを挙げる ・個人的な趣味や好みを教科書に残すのではないという点に留意する ・BからCへの手立て…過去の文化的なもの(特に明治よりも前)は、なぜ現代にまで伝わっているのだろうかという、思考の方向を提示する 最近行った観能教室からのアプローチも考えられる 活動その2 グループで考える(15分) → ホワイトボードを用いて発表する(10分) ・根拠が明確であるか ・個人的な好みに流されすぎているか？ ・そのほか → 長く残っていく文化的なもの 根底に流れるものとは何かを考える  まとめ 個人で、課題の答えをワークシートに書く(8分) 「未来へ伝わっていく文化には、どのような特徴があるのだろうか？」 ・その時代の流行だとしても、その後の時間の流れに耐えられるもの(すたらないもの) ・いつの時代もあまり変わらないような、人間の感情に由来するもの ・今後なくなる可能性が考えられるからこそ、今、残したいと思うもの ・将来の標準や常識などになりうるようなもの	

実践事例

社会3年

授業者 金田 哲也	授業日 11 月 23 日(金)	
授業クラス	3 年 3 組	関係・連携の考えられる教科等 美術・英語
授業内容 美術館の運営や、音楽ホールのネーミングライツなどのように、一見本業とは関係のない企業の活動が存在する。これらの事例をきっかけに、企業の社会的責任について考察する。		
教科等で身に付けたい力（本時について） ・経済面以外の、企業の果たす役割や責任について考察し、表現することができる。 【思考・判断・表現】		育成したい資質・能力 ③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ <ol style="list-style-type: none"> 導入と課題提示（10分）… 前時の復習 <ul style="list-style-type: none"> 私企業の最大の目的 … 利潤を得ること 私企業に多い形態 …… 株式会社 ← 株式の発行による資金調達 株式の特徴 ……………… 価格（株価）が上下する 売買できる 持っているると配当を得られることがある <p>課題 利潤を得る以外の企業活動には、どのようなものがあるのだろうか</p> 配付資料について、説明できるようにする（12分） <ul style="list-style-type: none"> 企業の社会的責任に関する実践資料を、4人の各グループに1枚ずつ配付。 → 内容をほかのグループに説明できるようにするとともに、なぜそのような活動を行っているのかを考察する。 資料について、説明する（15分） <ul style="list-style-type: none"> 他のグループに、企業の実践と取り組む理由を説明する。 なぜこれらの実践が、その企業の主要な業務と関係がなく、利潤を生み出すことがなさそうなのに、行われているのだろうか。 各グループが発表した活動に、何らかの共通点はないだろうか。 <予想される生徒の考え> 「伝統や文化を守り、育て、発展させるための活動じゃないのかなあ。」 「企業名が話題になることで、宣伝効果を狙っているんじゃないかなあ。」 富岡製糸場の保存運動に関する説明を聞く（6分） <ul style="list-style-type: none"> 閉所後18年間、世界遺産登録を目指すまで富岡製糸場を保有し、維持管理を続けてきた片倉工業の事例を紹介する。 富岡製糸場の閉所後も「売らない、貸さない、壊さない」を貫き保存するためには、どのようなことが必要なのだろうか。 まとめ（7分） <ul style="list-style-type: none"> 企業の社会的責任について、どのようなことが考えられるか、ノートに自分の考えを書く。 		